KWANSEI GAKUIN
SCHOOL OF THEOLOGY

関西学院大学

神学部報

No.125　2025.6

Contents

2025年度始業礼拝メッセージ（神学部長）---- P.1
副学部長あいさつ（教務担当・学生担当）---- P.1
2025年度始業講演---- P.2
退任あいさつ---- P.2
新入生オリエンテーション報告---- P.2
日本基督教団四国教区派遣神学生研修報告---- P.3
留学報告---- P.3
学生の声 神学部で学ぶ---- P.4
ディアコニア・プログラム報告---- P.4
第59回 神学セミナー報告---- P.5
第26回 キリスト教教育研究集会報告---- P.5
MSセミナー2024・2025ご案内---- P.5
『神學研究』72号のご案内---- P.5
2026年度神学部・神学研究科入学試験ご案内---- P.6
第42回 関学ユースキャンプご案内---- P.6

Instagram
KGTHEOLOGICA

発行　関西学院大学神学部広報委員会
〒662-8501　西宮市上ケ原一番町1-155
電話（0798）54-6200　FAX（0798）51-0936
https://www.kwansei.ac.jp/s_theology/

Facebook

2025年度　始業礼拝メッセージ
「スクールモットー Mastery for Serviceとともに」

神学部長　岩野 祐介

4月8日　於:関西学院会館　レセプションホール

本日の聖書箇所マタイ20:20-28は関西学院のスクールモットーであるMastery for Serviceの由来となる箇所です。実は、ベーツ先生が直接この箇所を引用しているわけではありません。しかしキリスト教の文脈でMasterとServantというとこの箇所を思い浮かべると思います。

ベーツ先生は、

「私たちは、他人や境遇、あるいはみずからの情念に“縛られた人”（奴隷）になるつもりはありません。私たちがマスターになろうとする目的は、自分個人を富ますことでなく、社会に奉仕することにあります。私たちは、広い意味で人類に奉仕する人になることを目指しているのです。」

と書いておられます。

20節にはヤコブとヨハネ兄弟の母親が出てきます。この母親は、イエスが王様になろうとしていると思っており、あなたが王様になったら私の子どもたちを大臣のようにしてやってください、とイエスに願ったので、他の弟子たちが腹を立てました。そこでイエスが25節以降の教えを説くのです。

母が自分の子どもたちに、「えらい、よくやっている」と言われるようになってほしいと思うのは、おかしいことではありません。一般的に、母も父も、自分の子どもがかわいいからです。しかし、嫌な言い方をすれば母も父も自分の子どもたちだけがかわいくて、よその子どもは別にかわいくないのかもしれません。

親、子、ともだち、のような自分にとってかわいい、大事な、また自分を大事にしてくれる人のために一生懸命やるのは普通のことです。しかし、そういう自分を大事にしてくれる人が、いつでも、いつまでも近くにいてくれるとは限りません。そこでイエスは、偉くなりたい者は皆に仕える者になりなさい、皆が皆に仕えるのだ、と言うのです。そうすれば、母のように自分を大事にしてくれる人がいなくても、放置され置き去りにされることはないでしょう。隣人とは誰ですか等と言っていないで自分から隣人になりにいきなさい、というイエスのことばも思い起こさせられます。

ここで言う偉い、いちばん上とは何でしょう。ヤコブ・ヨハネ兄弟の母は王様を考えているのかもしれません。しかしイエスは、それらは神の支配を求めない異邦人の世界の偉さだ、と言います。民族差別ではなく、神様を求めない世界を異邦人の世界と言っているのだと思います。いま私たちの生きているこの世界は、残念ですが神の世界ではなく、自分と自分の身内だけを大事にして、力で支配しようと争う世界になってしまっています。

イエスの考える神の世界は、そうではなくて、皆が皆を大事にする、そういう世界です。26-28節でいう「皆」・「多くの人」とは、全ての人ということなのだそうです。ベーツ先生は「社会」「人類」に奉仕しようと書きました。そのために、自分で自分のMasterになろう。他人の言葉、みずからの思い込みに縛られその奴隷となるのではなく、自分の進む道を自分で考え自分で選ぶのがMasteryであり、全ての人に対して自分にとって大事な人にしてあげたいようにServiceするのです。Serviceする相手は、今この場にいっしょにいる仲間かもしれません。ともに神に仕え、神を愛し、隣人を愛し、隣人に仕えましょう。

副学部長あいさつ

教務担当　加納 和寛

コロナ禍の影響でオンライン授業を含む多様な教育手法が必要とされ、AI技術の進展は人文科学の教授法にも変革を促しています。最先端の神学理論を柔軟かつ革新的に学生に提供し、時代の要請に応える教育を行うためにも、こうしたテクノロジーとの対話は不可欠です。また現代の世界情勢における宗教の役割が複雑化する中、神学のリテラシー向上の必要性はさらに高まっていると感じます。混迷を極める現代社会に対して、神学の観点を持って奉仕する練達者へと学生たちが成長できるよう、何よりも皆さまのお祈りをお願いいたします。

副学部長あいさつ

学生担当　東 よしみ

2025年度、学生担当の副学部長を務めます東よしみです。本年度は、26名の新入生、8名の大学院生を迎えてスタートしました。神学部の学生たちが、思う存分に学び、様々な活動に打ち込み、充実した学生生活を過ごすことができるよう、必要なサポートをしていきたいと思います。大学生活では、予測できないような問題にぶつかることもあるでしょう。学生の皆さんには、問題を一人で抱え込まず、周囲に相談し、助けを求めて欲しいと思います。学生たちの心身が守られ、良き学びと成長の時を過ごすことができるよう祈り、お支えください。

始業講演「ポンペイから見える古代人の営み」

浅野 淳博 教授

4月8日　於:関西学院会館　レセプションホール

講演者は4泊7日(3/19−25)の予定でイタリアのカンパニア地方に位置するポンペイの遺跡群へ視察にでかけましたが、講演会ではその模様を報告しました。小プリニウスが克明に記す通り、後79年にカンパニア地方のナポリ湾に面するヴェスヴィオス火山が大噴火した際に、ポンペイはその火山灰に埋もれたので、かえって非常に良い保存状態で発見され、19世紀以降に本格的な発掘作業が開始されました。したがってこの遺跡群には、新約聖書時代のヘレニズム・ローマ世界の人々の日々の営みを知るのに非常に貴重な場所として、多くの研究者が訪れています。現在は66ヘクタールに及ぶ敷地内の2/3の発掘がほぼ完了しています。これまで講演者が訪れた遺跡群(デルフィ、コリント、フィリピ等)は半日あれば十分に視察ができますが、ポンペイの遺跡に関しては詳しく見て回るためには少なくとも2日は必要です。講演会では多くの写真や図版を用いて、当時のウィッラ(邸宅)や小規模店舗兼住居の様子を示して、どのようなところで家の教会が持たれていたかを想像する機会を持ちました。またローマ浴場、円形闘技場、フォルム(広場)に面した皇帝神殿やユピテル神殿(カピトリヌム)等の遺跡を提示して、いかにローマ帝国がその権威の爪痕を征服地に残したかを紹介しました。さらに、現存するフレスコ広告、落書き、神棚等から、当時の人々がどのような信仰心を抱き、何に関心を持ち、いかなる風俗に慣れ親しんでいたかを示して、新約聖書時代のキリスト者がその信仰を貫こうとする際に生じる摩擦や障害がどのようなものだったかを考える機会を持ちました。遺跡の視察が聖書解釈にとっていかに重要かを理解してもらえたと考えます。

退任あいさつ

芦名 定道 教授

2025年3月末をもって関西学院大学神学部を退任いたしました。神学部で教育と研究に携わったのは4年間に過ぎませんでしたが、神学部の教員、職員、教務補佐、そして学生のみなさまと豊かな学びの時を共にすることができました。心から、感謝いたします。神学部に赴任した頃はちょうどコロナ禍で大学の授業などがオンラインで行われていた頃で(神学部の授業は対面でしたが)、大変なスタートだったことを思い出します。

関西学院大学神学部では、キリスト教思想を担当し、キリスト教思想I、応用倫理とキリスト教A·B、西洋哲学史Bなどの講義を受け持ち、文献講読やゼミも指導しました。ゼミでの学生の研究発表は鮮やかな印象に残っています。2025年度も講義を担当しますので、よろしくお願いいたします。

神学部のみなさまが健康を守られ、学びと研究に励まれますようお祈りし、退任の挨拶を結びたいと思います。

(2021年4月−2025年3月)

新入生オリエンテーション報告

副学部長(学生担当)　東 よしみ

26名の新入生を迎え、4月1日(火)−2日(水)に新入生オリエンテーションがもたれました。第1日目は、入学式と神学部チャペルでの宣誓式の後、学生担当副学部長による学生生活のオリエンテーションが行われ、神学部図書室とチャペルの利用説明や学生連盟の説明がありました。第2日目は、教務担当副学部長による履修指導の後、保健館の案内とパソコン講習がもたれました。休憩の後、グループに分かれて、先輩学生たちによるキャンパスツアーと履修相談が行われました。最初は緊張した面持ちの新入生たちでしたが、桜が咲くキャンパスを先輩たちに案内してもらう頃には、緊張が解け、和やかな様子が見られました。二日とも天候に恵まれた中でオリエンテーションを行うことができました。これから新入生たちが神学部で充実した時を過ごすことができるよう願います。

日本基督教団四国教区派遣神学生　研修報告

＜期間＞2月15日（土）～2月21日（金）
＜場所＞香美教会、中芸キリスト教会、高知教会、宍喰教会、海南伝道所、土佐福音教会、土佐嶺南教会、瀬戸キリスト教会

キリスト教伝道者コース4年（当時）　日下部 春希

2月15日から21日の一週間、派遣神学生として四国教区高知分区の8つの教会をお訪ねしました。それぞれの教会で教会員の方々があたたかく迎え入れてくださり、交わりの時を持ちました。交わりの中で感じたのは、教会同士が一つの共同体のように親しくしているということです。高知分区には19の教会があります。高知県は広いため物理的には離れていますが、一方で関係性はとても近いです。一緒に祈祷会をしたり、一緒に他の地域に伝道したりと、他の教会と共に活動することが多くあるのだそうです。研修の最終日に高知分区の4つの教会が行っている合同祈祷会に出席させていただきました。月に一度、共に集まって、それぞれの教会の現状や課題を共有し、共に祈る集まりです。「○○さんが入院しました」、「来月こどもの教会のイベントをします」など、ささやかなことのためにも祈ります。そういったささやかな出来事に関する情報を共有することで、遠く離れていてもそれぞれの教会が孤立しないのだと思います。また、「四国の宣教は四国のみんなで」という言葉を教えていただきました。その言葉を通して私は、それぞれの教会がばらばらにあるのではなく、共に歩んでいく思いがあるのだと感じました。一週間、たくさんの教会をお訪ねさせていただいたことで、車で何時間も行き来する大変な面も、みんなで伝道しようという素晴らしい面も知ることができました。迎え入れてくださった四国教区・高知分区の皆様に感謝いたします。

土佐嶺南教会

＜期間＞2月15日（土）～2月19日（水）
＜場所＞香美教会、中芸キリスト教会、高知教会、宍喰教会、海南伝道所、土佐福音教会

キリスト教伝道者コース4年（当時）　朝川 優真

私は四国教区派遣神学生として高知分区を訪問させていただき、当地での伝道の取り組みについて学ばせていただきました。高知分区では各教会で伝道活動を行うのでなく、香長伝道圏を形成して周辺の教会が協力して伝道を行なっていました。その一つとして中芸キリスト教会の活動を見せていただきました。独立した教会ではないこの教会には、牧師も教会員もいません。しかし、この地域には教会がないので、福音が行き届かないという考えのもと、この教会が開拓伝道の拠点となり、毎週交替で周辺の教会からの派遣で礼拝を守っています。私が訪問した際には、説教をされる牧師の他に、担当の牧師の教会の信徒の方が列席していました。それぞれの教会での礼拝が午前中に持たれた後の礼拝でしたが、伝道圏の諸教会の信徒の方々が自身の使命として、伝道のために生き生きと礼拝に参加されていました。その後の交わりの際に「都会のように人やお金がある場所ではなくても、私たちは苦しみや絶望の中にいるわけではなく、むしろ一つの教会に限定されず、いくつもの教会の先生や信徒との交わりという恵の中にいる」と伺いました。四国教区の教会を何か所も訪問して感じたことは、人の輪が大きいということです。教会の中に留まらず、何十キロメートルもはなれた教会の人たちとの間にもつながりがありました。四国教区には私の知る都会の教会とは異なる文化や環境、歴史があり、教区としての魅力や課題も含めた多くのことを学ぶことのできた研修となり、感謝しています。

宍喰教会

留学報告

キリスト教思想・文化コース2年（当時）　塚越 彩葉

私は英語中期留学で、マレーシアのマラヤ大学に留学しました。留学して3ヶ月経ったころ、日本文化交流という学内イベントに参加しました。イベントでは、おりがみや生け花など日本の伝統的な文化を学生に披露し、実際に体験してもらいました。私は生け花を披露することになり、どのように説明すれば楽しんで学んでもらえるのかを考えて、入念に準備しました。当日練習通りに発表できたことは自信につながり、異国の学生たちと対話を通じて文化交流ができたことが印象に残りました。この体験で私が学んだことは、他文化を知るためには、まず自文化を伝える必要があるということです。私は、異なる文化間でも互いに違いを認め合うことができれば、視野を広げることができると信じています。そして相互の認め合いを助けるのは言語や知識です。現地で出会った学生の多くは、宗教に対する信仰を持っていたため、その方たちの文化を知るためには神学部で学んでいた内容がとても役に立ちました。宗教への理解と英語というツールを使って、私は、今後さらに他の国際交流プログラムに参加していきたいと考えています。

塚越さんは右から2番目

学生の声　神学部で学ぶ

キリスト教伝道者コース4年　奈良 梓

Q1.神学部に入学したきっかけは？

医師として患者さんやそのご家族と接するなかで、生きることや病気の意味を問われたり、ずっと抱えてこられた罪悪感をお聞きしたりすることがありました。私はどう受け止めたらいいのだろうかといつも悩んできました。スピリチュアルペインといわれるそれらの痛みが差し迫る終末期医療（ホスピスなど）では、キリスト教や仏教などの宗教的ケアが実践されつつあります。しかし、病と生きる日々にもその痛みは共にある。終末期だけでなくて一般的な医療の場にも、宗教的サポートがあったらいいな、と思いました。患者さんのためだけでなく、医療者のためにもです。その実現のためには、まずは自分がキリスト教を理解せねば！と思い、神学部に飛び込んでしまいました。

Q2.現在神学部で興味を持って学んでいることは？

実践神学のゼミで「病と生きる日常生活におけるスピリチュアルケアー医療現場とキリスト教的ケアの協働の視点からー」をテーマに研究をしています。関学神学部の先輩には病院チャプレンをはじめ、医療・福祉の現場で活躍されている方が多くおられて、直接お話が聞ける授業や講演があることがとても嬉しいです。そしてこうした実践を研究するためには、キリスト教や宗教自体の生い立ちや、人間の根っこをもっと知りたいなあとも思います。歴史は今までとても苦手でしたが、愛と個性あふれる神学部の先生方のおかげで、今は興味津々です。入学してとても印象的だったのは、先生方の言葉がとても美しく、わかりやすいことです。在学中に少しでも吸収したいです！

Q3.将来の夢や目標は何ですか？

総合病院には内科・外科・眼科・精神科…と色々な科がありますが、そこに「スピリチュアルケア科」が並ぶことを妄想しています！「宗教離れ」といわれる現代、私たちが自分のいのちの意味や価値についてじっくりと考える機会は減っています。でも病気になると、自分の生き方や生の時間が輪郭を持ち始めます。それは苦しくもありますが、自分の根源的な、いわば宗教的な扉が開く時、といえるのではないかと思います。開いた扉の先に寛ぐことができる場所・器を用意することが私の夢です。そのためには、「キリスト教・宗教とは何か」を医療者に伝えられるように、そして宗教的な視点をもつ医療者を育成できるように、学びを深めたいと思います。

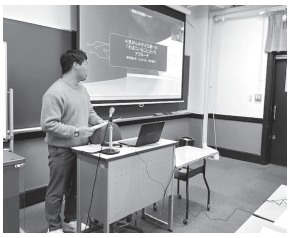
Q4.神学部生、神学部入学を目指している受験生に対してメッセージをお願いします。

色々なことにチャレンジして、自分の枠をひろげて、引き出しを増やしてほしいなと思います。いくつになってもできることですが、やはり10代・20代の柔軟性は半端ない！「失敗を恐れずに」とよく言われますが、「失敗」から新しい道が開けますし、それが後々役にたちますから、最終的に「失敗」はないんじゃないかなと思います。

そしてなんといっても、神学部では毎日持たれているチャペルでの礼拝を大事にしてほしいと思います。チャペルでは神学部の先生だけでなく、他学部の先生、学生、学外からも、バラエティーに富んだ方々がお話くださいます。「多様な視点」を知ることで自分の横軸が、そして神と自らの根っこへ向かう縦軸が大きく伸ばされる時間です。ぜひ大切にしてほしいなと思います。

ディアコニア・プログラム報告

森本 典子 専任講師



2024年、ディアコニア・プログラムは10周年を迎えました。それを記念して、2025年2月の神学セミナーでは「ディアコニアでつながる未来」をテーマとして、これまでのディアコニア・プログラムを振り返り、これからのキリスト教におけるディアコニアの可能性を参加者の皆さんと共に考える機会を持ちました。

また、2024年度は4名の学生がディアコニア・プログラムを修了しました。それぞれが以下のテーマで取り組み、今年1月にその成果報告会を開催しました。

「小児がんの子ども達に対する『生』へのアプローチ」では、小児がんを患う子どもたちに対して、「命」や「生」など生きている今に対するアプローチと対話の重要性を報告しました。

「セックスワークにおける人権問題と教会の機能」では、キリスト教において「道徳問題」の問題として捉えられがちなセックスワークに対し、実際には「人権問題」として向き合う必要があること、そして、支援が必要な人のためには、教会が伴走型支援の中心的役割を担うことができないかという提案がされました。

「認知症当事者のスピリチュアルペイン」では、支援者と被支援者を分けるのではなく、対等な尊厳を持つ人間として向き合い、様々な形で対話をすることの大切さがディアコニアの視点から語られました。

「介護者と教会　ー教会が教会であるために一」では、介護をしているために日曜日の朝礼拝に参加できない人々のためにも、教会とその共同体が牧師に依存することなく、主体的に時代にあった身体性のある交わりを提供する必要があるとの提言がされました。

それぞれテーマは違いますが、2年間のワークショップで一つの社会的課題に取り組み、文献の講読やインタビューなどを通して、困難な状況に置かれてしまった人々に「何かをやってあげる」のではなく「互いが必要なことを見つけ、相互に支援しあう」ことの大切さを発見したように思えます。

第59回　神学セミナー報告　加納 和寛 教授

ディアコニア・プログラム開始10年を記念して、第59回神学セミナーは「ディアコニアでつながる未来」と題し、2025年2月17日（月）に西宮上ケ原キャンパスＥ号館で開催されました。

招待講演は上内鏡子氏（日本基督教団神戸イエス団教会牧師、賀川記念館天国屋カフェ事業担当）、主題講演を森本典子氏（神学部専任講師）が務められ、ディアコニア・プログラム修了者の中から、野上言愛氏（小国町社会福祉協議会サポートセンター悠愛）、西脇聡子氏（東京都福祉局子ども子育て支援部多摩児童相談所）、大仁田空氏（日本基督教団塚口教会伝道師）が現場での働きを発表し、井上智氏（神学部助教（当時）・宗教センター宗教主事）の司会によりワークショップが行われ、パネルディスカッションでは橋本祐樹氏（神学部准教授）が司会し、市瀬晶子氏（人間福祉学部准教授）、中道基夫氏（関西学院院長、神学部教授）、上田直宏氏（日本基督教団主恩教会牧師、神学部非常勤講師）が登壇されました。

当日の参加者は91名（教会集会室の参加者を含むと94名）、そのうち対面出席者は 65名、オンライン参加者は26名（教会集会室の参加者を含むと29名）でした。

セミナーの内容はこれまでと同じように神学部ブックレットとしてキリスト新聞社より2025年度中に公刊される予定です。

ワークショップ

パネルディスカッション

主題講演

招待講演

第26回 キリスト教教育研究集会報告

2024年12月27日（金）に関西学院中学部にて、第26回キリスト教教育研究集会が行われました。中道基夫院長が「ミッションスクールから School with Missionへ」というタイトルのもと講演を行い、OBの田中耕大氏（アレセイア湘南中学高等学校）が教育現場からの報告を行いました。

MS セミナー 2024・2025 ご案内

「MSセミナー2024・2025」は8月26日（火）～28日（木）に開催される予定です。神学部・神学研究科を卒業・修了し、2024年度および2025年度に教会の現場で働いて5年目、10年目を迎えた方に既にご案内いたしましたが、万が一連絡が来ていない場合は下記へご連絡ください。すぐにご案内させていただきます。

関西学院大学　神学部補佐室
TEL.0798-54-6207（FAX.0798-51-0936）
E-mail:thhosa42@kwansei.ac.jp

＜牧会講演＞
本多 肇（日本基督教団 隠退教師）

＜神学講演＞
芦名 定道（関西学院大学神学部 国内客員教授）

『神學研究』72号のご案内・73号執筆募集

頒布につきましては、神学研究会までお問い合わせください。

芦名定道教授への感謝の言葉 … 神学部長 岩野 祐介

講　演

非暴力と非戦を求めて ―新たな戦争と暴力の時代に抗して― … 千葉 眞

論　文

セトとエノシュ ―創世記4:25-26の文学的機能と特徴― … 岩嵜 大悟

ルカ文書の神学とサマリア人の譬え話
―ルカ10:25-37の釈義的研究― … 木原 桂二

ローマ書5章の εἷς ἄνθρωπος（ひとりの人）は
どこから着想されたか … 武久 盾

神学における「宗教」―聖霊論の観点から― … 加納 和寛

異文化教育としての宣教文学
―スイス・ドイツ青少年の世界観形成と日本像― … ペーターセン エスベン

W・A・ヴィサー・トーフトにおけるD・ボンヘッファー
―オックスフォード会議の準備論文をめぐる宣教学的一考察―
… 橋本 祐樹

研究動向

イングランド国教会における
女性按手に反対する男性聖職者の態度分析 … 薄井 良子

2026年3月発行予定の第73号『神學研究』への投稿論文を募集します。投稿対象は、査読付き論文／論文、研究ノート、書評、研究動向の4文種です。募集期間等は以下の通りです。
・執筆申込期限　2025年6月27日（金）～ 9月26日（金）
・論文提出期限　2026年1月7日（水）
　査読付き論文掲載を希望する場合：2025年10月24日（金）
詳細については、ホームページにて随時更新しておりますので、下記リンクからご確認くださいますようお願いいたします。
『神學研究』第73号応募要項
https://www.kwansei.ac.jp/s_theology/teacher/research/
関西学院大学神学部内　神学研究会　TEL.0798-54-6207

■ 2024年度　大学院博士課程 前期課程修了者　論文題目並びに進路

氏　名	論文題目	進　路
酒井　晋弥	雑誌『求道』に見える藤澤武義の伝道活動について	日本基督教団 唐津教会 相知伝道所
福留　洋平	説教における律法と福音 ―1コリント6.9-11の説教分析から「律法と福音」について何が言えるか―	日本基督教団 神戸栄光教会
潮田　真舟	マナセ物語を読む	日ノ本学園高等学校・神学研究科後期課程
日下部　光喜	三派合同に至る南美以教会の歩み	日本基督教団 飫肥教会
全　容佑	日本においてキリスト教葬儀が「教会」で行われる宣教的意義	
吉澤　和海	サムエル記上14章におけるヨナタンとその人物造形	日本基督教団 いずみ教会・神学研究科後期課程
岡元　麻奈	人間創造物語（創2:4−25）における間主観的読みの提示 ―W.イーザーの「空所」の理論に基づいて―	
八木　清文	波多野精一における「実在する神」の理解から、「信仰者」と「神」の関係をいかに説明しうるか	

■ 2024年度　博士（神学）学位取得者　論文題目

氏　名	論文題目	進　路
金　潤貞	韓国における「母胎信仰」の宣教学的意義	

【2024年度　学位取得者】

■学　部：学士27名（進路：本学大学院神学研究科前期課程進学４名、企業等就職18名、宗教法人就職1名ほか）［2025年5月現在把握数］

※主な就職先…（株）日立製作所、三菱電機（株）、JCRファーマ（株）、大阪ガス・カスタマーリレーションズ（株）、日本赤十字社、三井住友海上火災保険（株）　ほか

■大学院：修士８名、博士１名

【2025年度　学部・大学院入学者】

■学　部：新入生　26名（日本基督教団教会所属：5名）
■学　部：（3年次）編入学生　0名（日本基督教団教会所属：0名）
■大学院：博士前期課程　6名（日本基督教団教会所属：3名）
■大学院：博士後期課程　2名（日本基督教団教会所属：2名）

2026年度　神学部・神学研究科入学試験ご案内

■ 2026年度 神学部入試情報

	入試種別	出願期間	試験日
総合型選抜入試	学部特色入試（社会人、外国人留学生含む）	9月1日（月）～ 9月8日（月）	10月 25日（土）
	スポーツ選抜	9月1日（月）～ 9月8日（月）	9月 27日（土） 10月 25日（土）
	グローバル入試	9月1日（月）～ 9月8日（月）	9月 27日（土） 10月 25日（土）
	探究評価型入試	9月1日（月）～ 9月8日（月）	10月 25日（土）

※編入学（3年次）試験は実施しません。

入試情報詳細は以下のウェブサイトから確認ください。

◆神学部　https://www.kwansei.ac.jp/admissions/
◆神学研究科　https://www.kwansei.ac.jp/graduate/admissions/

■ 2026年度　神学研究科入試情報

＜博士課程前期課程＞

	出願期間	試験日
一　般	＜第1次＞ 8月 22日（金）～8月 29日（金）	9月　5日（金）
社会人		
外国人留学生	＜第2次＞ 2月　9日（月）～2月 16日（月）	2月 20日（金）

＜博士課程後期課程＞

	出願期間	試験日
一　般	2月　9日（月）～ 2月 16日（月）	2月 20日（金）
外国人留学生		2月 21日（土）

【お問い合わせ先】関西学院大学神学部　Tel.0798-54-6200
入学センター　Tel.0798-54-6135

第42回 関学ユースキャンプ ご案内

日　　時　2025年8月5日（火）～7日（木）
場　　所　関西学院千刈キャンプ
　　〒669-1507 兵庫県三田市香下 1817-1
主　　題　「自分だけの正解を探し求めて」
主題聖句　フィリピ2:13「あなたがたの内に働いて、御心のままに望ませ、行わせておられるのは神であるからです。」
講　　師　家山 華子（日本基督教団 箕面教会 牧師）
参 加 費　12,000円
申 込 先　高陽 鐘翼　〒225-0013 横浜市青葉区荏田町474-1
　　日本基督教団 田園江田教会内　電話 045-912-0930

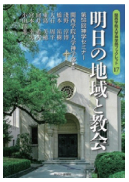
～講師より高校生・青年の皆さんへ～

いくつになっても、自分だけの正解を探し求めるのは簡単じゃありません。それに、大人だからって答えを持っているわけでもないのです。でも、一緒に探すことならできるかもしれません。皆さんと過ごす２泊３日が、それぞれに一歩を踏み出す力になることを願っています。

家山 華子 講師

教員の近著紹介

関西学院大学神学部編
『関西学院大学神学部ブックレット17：明日の地域と教会』
（キリスト新聞社、2025年2月）



2024年2月19日に開催された第58回神学セミナーの講演、発題、パネルディスカッションをまとめたブックレットです。聖書学、宣教学、そして現場の教会から、各地域における課題や取り組みについての考察と報告が収録されています。同じ地域にある二つの教会が災害の経験を機会に協働の道を見出した事例も報告されています。教会が既成の境界線を越えた共生と協働の中で地域に仕えることの大切さを考えさせられる一冊です。

浅野 淳博（共著）、左近 豊（編）
『聖書における和解の思想』（日本キリスト教団出版局、2025年1月）

現代社会の最重要課題である「和解」について聖書が何を語るか、7名の神学者と聖書学者が聖書の伝えようとする和解の思想について論じ尽くしています。著者は第8章「パウロの『和解』主題」を担当。

浅野 淳博（訳）、E.P.サンダース
『パウロとパレスチナ・ユダヤ教』（教文館、2024年12月）

功徳が悪徳を上回ることで救いが得られるとする行為義認を教える古代ユダヤ教という伝統的な理解を精緻なテクスト分析によって論破し、聖書学とキリスト教界のユダヤ教観を一変させた古典と評される著作の邦訳。

岩野 祐介・田中 きく代（監修）北米エスニシティ研究会（編）
『北米の小さな博物館4』（彩流社、2025年2月）

本書はタイトルの通り、北米中心に、一般的な観光ガイドなどでは取り上げられにくそうな、様々な博物館を紹介するシリーズの第4編です。岩野は北米そのものからはちょっと外れますが、アメリカでの体験から大きな影響を受けた人物、内村鑑三に関する「石の教会・内村鑑三記念堂」を紹介させてもらいました。また柳澤先生はアートを通じて社会正義を表現・追求するニューヨークのユニークな教会、ジャドソン・メモリアル教会を紹介しておられます。

柳澤 田実（訳）、ターニャ・ラーマン
『リアル・メイキング：いかにして「神」は現実となるのか』
（慶應義塾大学出版会、2024年11月）

神のような、信仰の対象になる目に見えない存在は、信者にとっていかにして「リアル」になるのでしょうか。本書はそのメカニズムを、様々な宗教、宗派へのフィールドワークをもとに文化人類学的に考察した研究書です。著者のターニャ・ラーマンはスタンフォード大学の教授で、宗教から精神医療まで人間の心に関わることを幅広く研究しています。信者の経験を分析した本ですが、自分たちの経験が見事に描写されていると米国ではクリスチャンにも高く評価されています。

博士論文を出版しました

家山 華子 著『牧会の理論と実践における聖書の役割
―ヘルムート・タケとの対話を通して』
（かんよう出版、2024年11月）

本書は、2020年2月に神学研究科に提出した博士論文を加筆修正したものです。心理学が発展した20世紀以降の牧会学の議論を、理論と実践の相克という視点から概観し、エードゥアルト・トゥルンアイゼンと同じ流れにありつつ、彼を批判的に継承したヘルムート・タケの理論と、ナラティヴ・アプローチの視点で対話しながら、牧会的対話の基礎づけについて議論を展開しています。

2024年度秋学期（9月～3月）神学部日誌

9/20	学部・大学院秋学期授業開始
9/21	神学基礎テスト
10/23	神学研究会「コロサイ書註解緒論から：解釈の視点」（淺野 淳博 教授）
10/24	神学部学術講演会「非暴力と非戦を求めて ―新たな戦争と暴力の時代に抗して ―」（千葉 眞 氏・国際基督教大学名誉教授）
11/2～11/3	新月祭
11/15	教会と神学部の集い（神学部後援会主催）
11/18	神学部チャペル・コンサート（第2回）
11/27	神学研究会「T・ラーマン『いかにして神は現実となるのか』が今日のキリスト教理解に与える示唆と課題」（柳澤 田実 准教授）
12/3	神学部アドベント礼拝（森本 典子 専任講師）
12/11	神学部クリスマス礼拝「デンマークのクリスマス 光、愛と神のプレゼント」（ペーターセン・エスベン 助教）
12/27	第26回キリスト教教育研究集会「ミッションスクールから School with Mission へ」（中道 基夫 教授）
1/6	ディアコニア・プログラム発表会
1/9	秋学期授業終了
1/17	阪神淡路大震災記念礼拝　於：ランバス記念礼拝堂
1/22	神学研究会「『日本的キリスト教』再考 ―無教会主義キリスト教を中心に」（岩野 祐介 教授）
2/13	修士論文口頭試問
2/17	第59回神学セミナー「ディアコニアでつながる未来」
2/27	神学生出席教会牧師との懇談会
3/6	新卒教会赴任予定者オリエンテーション 神学部後援会伝道者育成奨励金授与式
3/11	東日本大震災記念礼拝　於：ランバス記念礼拝堂
3/15	秋学期大学院学位記授与式・修了礼拝／博士（神学）甲号1名、修士（神学）6名
3/17	秋学期大学卒業式・卒業礼拝／学士（神学）27名
3/22	オープンキャンパス模擬授業「恋愛の秘密がわかる！神学の特別レッスン」（加納 和寛 教授）

※所属・役職等は行事開催時のものです。

■卒業生のみなさまへ

◆ホームページのリンクに関するお願い

神学部のホームページでは、主に学生や多数の本学関係者に教会活動について幅広く知ってもらうため、本学部・研究科のOB・OGの方々が牧師や伝道師として在籍する教会名や教会ホームページへのリンク先を紹介しております。
神学部 ＞進路・資格＞OB・OGの在籍する教会・施設
（https://www.kwansei.ac.jp/s_theology/career/alumni/）
貴教会においてホームページを開設していらっしゃる場合は、ぜひ神学部までお電話でご連絡ください。また貴教会から神学部ホームページへのリンクも歓迎いたします。
■リンク先URL（https://www.kwansei.ac.jp/s_theology）

◆住所・勤務先変更ご通知のお願い

近年、神学部からの卒業生の皆様宛郵便物（神学部報・後援会だより・講演会開催案内等）が転居先不明で返送されることがあります。
ご転居の際には、ぜひ神学部事務室までご一報ください。
※ご提供いただいた個人情報を第三者に開示することはいたしません。